

### 水道のうつりかわり

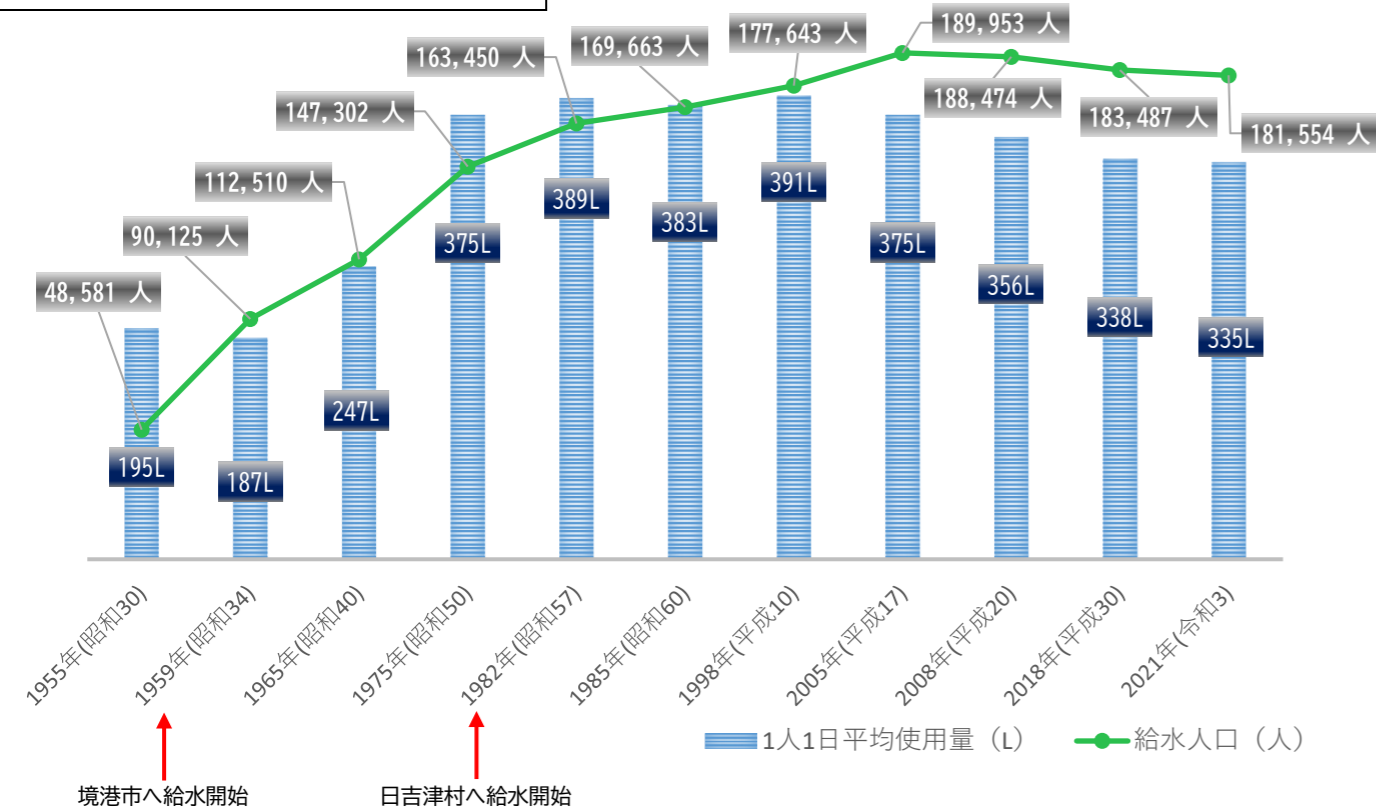
水道がつくれる以前の米子では、主に簡易な井戸が使用されていました。しかし明治末期頃から産業の発達や人口の増加により、下水が地下に浸透し、井戸水に混じったことで飲用に適さなくなりました。さらに、日野川や法勝寺川が大雨で氾濫するたびに水が汚染され、伝染病が蔓延する状況にありました。

このため、水道を布設する声が高まり、篤志家からの寄付金などを財源として水道設置工事に着手し、1926（大正15）年4月に給水を開始しました。1915（大正4）年に鳥取市で水道が開始して以来、県内では2番目でした。

それ以後、市域の拡大や人口の増大に伴う水需要の増加に対応するため、施設や配水管網の整備を行い、皆さんに安全で安心して利用できる水道水を安定的にお届けしています。

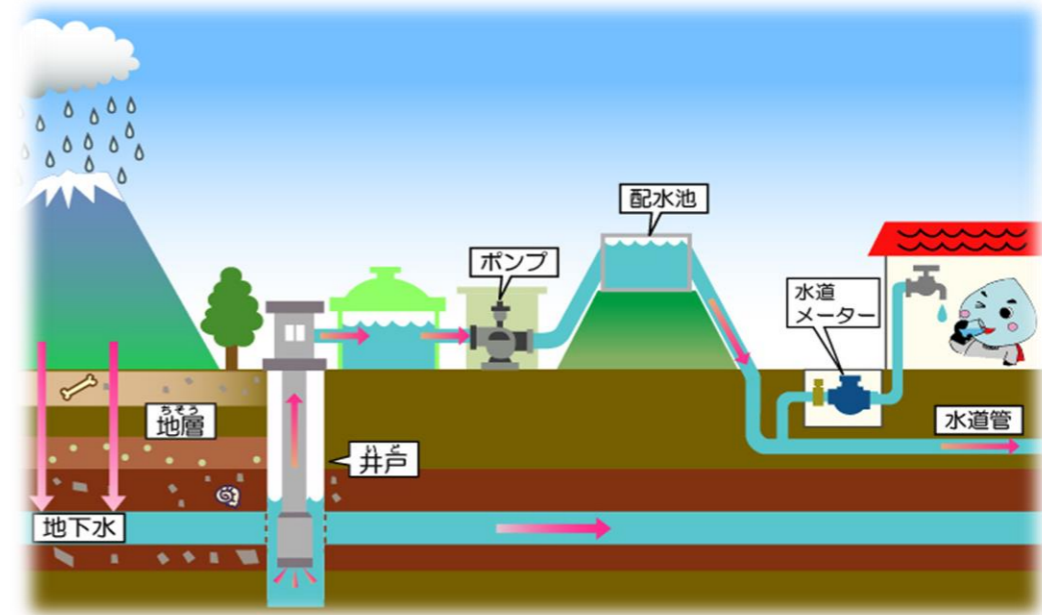
年	米子の水道のできごと
明治時代（1800年代）以前	町に伝染病（コレラ）などの病気が流行
大正 11年（1922）	水道を布設するための調査開始
12年（1924）	水道布設の許可申請が国から下りる。事業予算約70万円、現在の約3億円（ちなみに…当時ではもりそば1杯70銭、今ですと100万杯分になります。）
15年（1926）	水道工事が完成した（車尾水源地、観音寺山配水池）
昭和 22年（1947）	水道拡張工事開始（第1次）
34年（1959）	境港市域給水開始
48年（1973）	伯仙地区を給水区域に統合（米子市全域に上水道普及）
57年（1982）	日吉津村域給水開始
平成 7年（1995）	水質検査室完成
11年（1999）	水源かん養林を購入（日南町新屋地区山林177ha）
17年（2005）	旧米子市と旧淀江町が新設合併（人口約18万人）
28年（2016）	南部・中央配水池が完成（自然流下方式）

1人1日平均使用水量と給水人口の推移



### 水道水が届くまで

米子の水道では、地下深くからくみ上げた地下水を原水として利用しています。井戸でくみ上げられた原水は、いったん調整池に貯えられた後、塩素消毒を経て浄水となり、配水池へと送られます。そこから配水管を通してみなさんの元へ届けられます（=自然流下方式）。配水池への水の流入量は1日を通してほぼ一定しています。水が活発に使用される昼間は配水量が流入量を上回りますが、水の使用が少ない夜間に配水池内に水を貯めておくことで日中も安定して水を供給することができます。

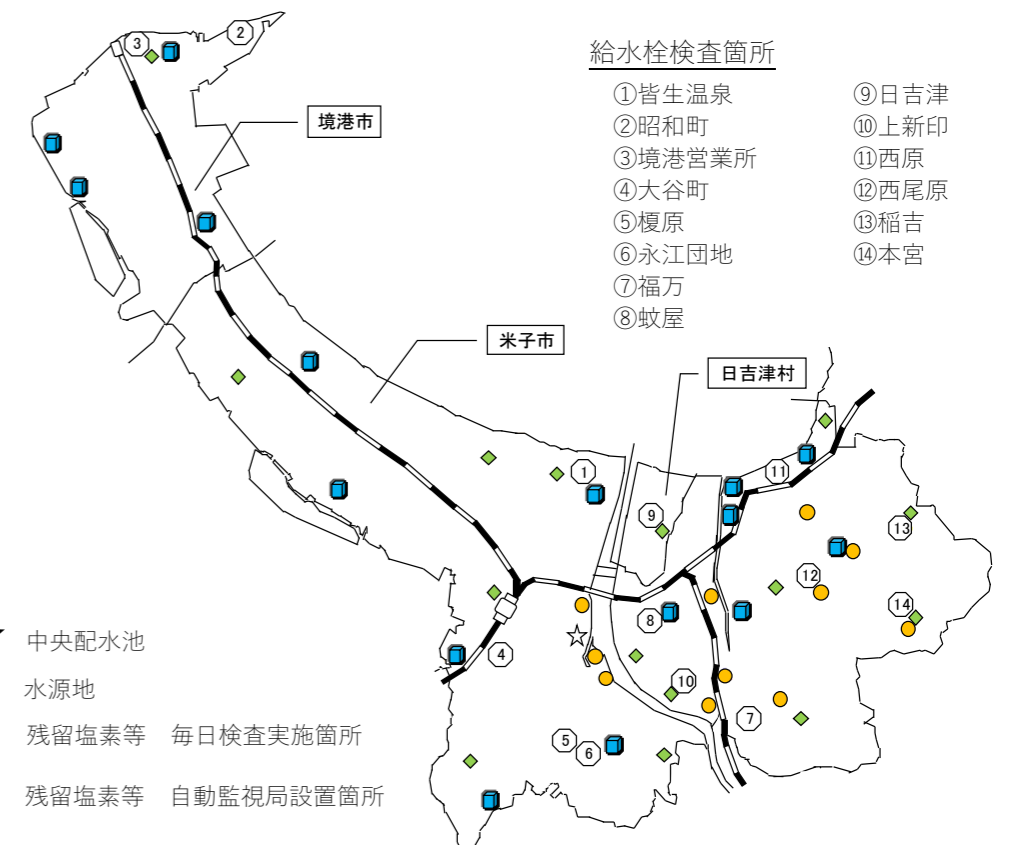


### 安全な水道水の供給

水道水の水質は水道法で定められた水質基準を満たしていなければなりません。水質基準項目は51項目あり、その基準値は、生涯にわたり水を飲んでも人の健康に影響が生じないものと設定されています。さらに水質基準を補完する項目として27項目の水質管理目標設定項目が設定されています。



- ☆ 中央配水池
- 水源地
- ◇ 残留塩素等 毎日検査実施箇所
- 残留塩素等 自動監視局設置箇所



水道局では、水源から配水池、じゃ口までの各段階で採水地点を設定し、水質検査をしています。水源地の井戸や配水池、市内のじゃ口で採水した水は、その性質に応じて必要な検査項目を毎日又は毎月実施しており、皆さんにお届けする水道水の安全性を確保しています。

## 災害に強い水道をめざして

水道は私たちの生活に欠かすことができないものです。平成12年に発生した鳥取県西部地震や東日本大震災などの災害経験から、水道施設の耐震化や応急給水対策など、災害に強い水道の取組みを進めています。

### ■水道施設の耐震化

老朽化した水道管は赤水や漏水の原因になってしまいます。

そこで水道局では、古くなった水道管を順次耐震管に取り替える取組を進めています。また、配水池や調整池などの施設についても順次、耐震化を図って行きます。

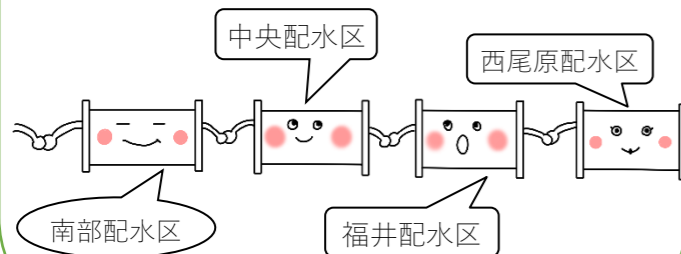


(配水管取替工事の様子)

### ■連絡管の整備

米子市水道局では米子市をはじめ境港市、日吉津村の2市1村に給水しています。

現在、給水区域内に配水区を9つに分けて運用しており、非常時における水の相互融通のための連絡管を整備し、常時、安定的に供給できるように、広域的なバックアップを図っています。



### ■応急給水対策

給水区域内において、災害発生時に応急給水が可能な施設を設け、応急給水に使える水を確保しています。

#### ○米子市水道局

- 本庁舎 (米子市車尾南 2-8-1)
- 戸上水源地 (米子市福市 1047-1)
- 境港営業所 (境港市上道町 2025-7)

#### ○災害救援ベンダー (自動販売機)

水道局庁舎及び境港営業所敷地内



### ■応急対策活動・応援活動の体制整備

災害時の応急対策活動を迅速かつ的確に実施できるようマニュアルの定期的な更新及び職員間で訓練をしています。

また、日本水道協会をはじめ、県内外の水道事業者との間で協定を締結し、災害時に相互の応援活動を実施しています。

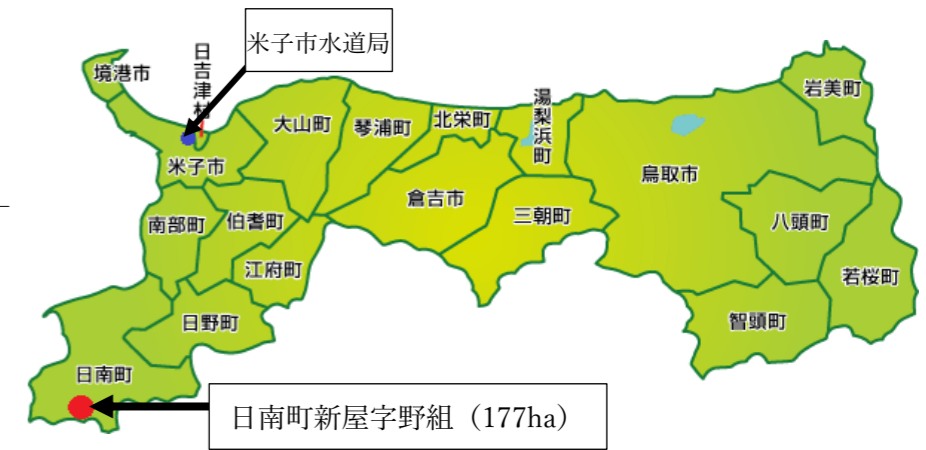


(災害給水支援の様子)

## 水を守る取組み

米子市水道局では、暮らしを守る「環境の森」として日南町新屋字野組に広葉樹を中心とした水源かん養林 ※ 177ヘクタールを保有しています。

中国山地の鍵掛峠 (かっかけとうげ) 付近に位置すること地区には、ブナやナラ、クリなどの広葉樹の森が広がっています。



### ※水源かん養林とは…

森林の土壌が降った雨を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能があります。また、雨水が森林土壌を通過することで水質が浄化されるという機能もあります。

### 水の循環 (イメージ)



- ①雨が山にしみ込みます。
- ②しみ込んだ水は長い年月を経て井戸からくみ上げられ、私たちの暮らしを支えています。



- ③生活で使われた水は、下水処理を経て川から海へ流れていきます。
- ④太陽光で暖められた水は蒸発して、やがて雨になります。

## 米子市水道局PRキャラクター「パッキン☆マン」のご紹介

水道局の車尾水源地内にある深井戸 85mからくみ上げられて地上に出現したパッキン☆マン。特技はいち早く水漏れを発見し、修繕にいち早くかけつけ、困っている家庭を助けています。

また、水道局のイベントなどを手伝ってもらって、2014年には鳥取砂丘で行なわれた「ゆるキャラ運動会」で優勝するなど運動神経抜群のたのしいアニキです。

